

季刊

地球生活マガジン*住まいは、生き方

チルチンびと

12
号

2000
SPRING

★特集

古民家・古材にいのちを
吹き込む。

★特別企画

住まいは、バランス。

住まい観インタビュー
阿川佐和子

★特集

もったいない という美学

実例・新しいだけの家に、住みたくない。

「昭和のくらし博物館」で、始末のいい暮らしを学ぶ。

森林の宝を無駄にしない。

小さな庭をインテリアに、ギャラリー・創園の提案。

季節を通して移りゆく表情を楽しみ、味わう盆栽とその瞬間が一番美しい切り花。このふたつの感覚を混ぜ合わせた、新しい植物の楽しみ方が「置庭」。これは、大皿や小さな器などに樹木や草、花を寄せ植えしたもので、手軽に持ち運びができて、部屋の場面やその季節に合わせて楽しむことができるのです。

「ギャラリー・創園」では、そうした室内に置く小さな庭の提案や庭に付随するしつらい道具の開発・販売を行なっています。

「ここは園芸屋さんではなく、庭のパーツ屋さん。庭の遊び方の情報も発信しています。置庭はあまりマニュアルにとらわれず、自由につくってください」



置庭の実例
これは草類を植えた土の部分に苔を乗せたアレンジも。

机には柿渋の敷物などの小物が並び、壁に設けた棚には器の植木鉢など。



とデザインを担当する奥村さん。ポットに入った苗や置庭にあしらう小さな自然石や苔、柿渋和紙の敷物、底に穴を空けたそば猪口や織部焼の器の可愛らしい植木鉢。店内には和雑貨のようないろんな商品が並びます。「和洋折衷の私たちの暮らしのなかで、その中間的な現代に合うスタイルを提案していきたい」と奥村さん。ここでは、いわゆる観葉植物ではない、掌にのる小さな庭と出会えます。

「ギャラリー・創園」東京都目黒区青葉台2・10・13 ☎03・5459・3928
*営業時間 午前10時30分〜午後6時（日曜祝日休み）

11号の美山の葺き替え工事報告。

棟の作業を残し、11月8日ロジャー・エバンズ氏が帰国（2か月間滞在）。この期間は国際交流基金によりロジャー・エバンズ氏の渡航費、生活費、研究費などは援助されました。棟は一日で完了（述べ人数2人）。通気性を良くするため、蹄鉄用の釘70本ほどを約20cm平方の板に整然と打ち付けたタタキを使用し、仕上げを行なう。（4日半、述べ人数4〜5人。ハサミは仕上げに使用しない。）雨天が続いたため、11月21日作業完了。南側斜面から見た屋根は北山型の様相を提している。また、角のカーブがなめらかで優しく、かわいい屋根に仕上がった。北側斜面からの眺めは天窓と壁の焼き板とのコントラストが美しく、イギリスのコテッジを思わせる。

今年初めての大雪（1月21日）での観察、ヨシの一本一本の勾配が日本の葺き方よりきついため、雪の滑りが早い。ほかの新しく葺き替えた屋根と比べてもずいぶん早い。薪ストーブの煙を屋根裏に入れていたため棟の下平側の部分から雪が早く溶ける。また、天窓の屋根の部分には室内の暖気のため早く溶ける。そのため天窓の屋根からもその下の軒からも水柱が出来る。その水柱がヨシを引っぱり落とす可能性があるか今後の観察が必要。現在のところヨシは落ちて

いない。何十年も葺き替え屋根の守りをして来た近所のおばさんにヨシが落ちる心配を話したところ、そんなドロンな事してへん。（職人の仕事ぶりを毎日見ていたのでこの言葉が出たと思う。）葺き替え屋根は村落共同体の象徴であり日本の原風景になくはならない建物である。そのため葺き替え屋根を経済的、技術的に合理的な視点で見ることには抵抗を感じる人とそうでない人に別れるようである。前者には村落共同体が完璧なエコシステムを形成していた江戸時代を模範とし、その生活を見本にしようとする人。受け継がれた伝統がもつとも大事であると考え、あくまでいまのやり方を守ろうとする人。また、伝統の意味を考え直し、より地域に根差した新しい葺き方を模索する人。後者には葺き替え屋根が消滅する危機を感じて外国の成功例を参考に、技術革新を期待する人。ログハウスが流行っている昨今、純日本式の葺き替えにこだわらず、新しいデザインの可能性を感じ、葺き替え屋根の自由な在り方を期待する人がいる。

ある程度覚悟していたが、今回のプロジェクトで地元の人々の反応は今一つであった。（もちろん、全面的に支持して下さった方々もいたが残念ながら少数派であった）それは10年しか

美山で生活をしていない我々を地元の人と同じように見てくれていると誤解していたことに原因がある。もつと積極的に行政に働きかける努力をするべきであった。我々は日本の葺き替えに一石を投じたとは思いますが、その波紋が消えない内に第二、第三の石を投ずる新たなプロジェクトが地元の人々の中から生まれる事を願ってやまない。

なお、国際交流基金の援助がなければ、今回の英国式葺き替え総工費は約510万円となる。これはヨシを使い従来の葺き方をした場合の見積りの半額以下となるが、英国での見積りより100万円ほど高い。その理由は暖かい日本では1・6m程度の低いヨシを手に入れることが困難なため、高価になるからである。ただし、日本での葺き替え屋根の寿命は20年となっており、英国ではヨシ葺きは50年もつと言われている。英国式のヨシ葺きが日本の環境に合えば、ずいぶん安くなるはずである。

（佐伯 弘/佐伯 マギー）PS…このプロジェクトの実際の技術の説明はイギリスの職人が30年間使ってきた「The Thatcher's Craft」の一部を日本語に訳しました。エバンズ氏と尾坂氏の作業記録ビデオ（ナレーション付き）を制作しました。興味のある方は左記へご連絡下さい。〒601-0702 京都府北条田郡美山町田歌奥ノ谷8（佐伯）

美山で生活をしていない我々を地元の人と同じように見てくれていると誤解していたことに原因がある。もつと積極的に行政に働きかける努力をするべきであった。我々は日本の葺き替えに一石を投じたとは思いますが、その波紋が消えない内に第二、第三の石を投ずる新たなプロジェクトが地元の人々の中から生まれる事を願ってやまない。



葺き替え民家を英国式で葺き替え。後、葺き替えもった雪の積もった佐伯邸。

編集部から
選りすぐりの情報を発信